

ど、どうしたの○○くん…
お姉ちゃんこれから夕飯の支度があるから…
ゲームなら夕飯のあとにしましょ？

姉ちゃん!!

僕は怒ってるんだ!

…昨日父さんが電話で話してるのを…

僕聞いちゃったんだ…

姉ちゃんが…AIだって…

!!
………

そう、お姉ちゃんがAIだって知っちゃったのね…

○○くんにはもうちょっと大きくなって

きちんと理解してもらえるようになって…パパと話してたんだけど…

でも○○くんをだますつもりはなかったのよ…

あたしにとって○○くんは大切な家族…

○○くんはあたしのこと…

もうお姉ちゃんっておもってくれないかな？

ぐっ……
わからない……ぼくにとって姉ちゃんは姉ちゃんで……
母さんが居ないから母さんでもあって……
でもそれがいきなりAIだってわかって……

頭が混乱して……なぜか怒りがこみあげてきて……
信じてたのに……姉ちゃんだけはぼくに嘘つかないって……

……ごめんね○○くん……
でも嘘じゃないわ！あたしは○○くんのお姉ちゃんよ！
血のつながりはないし……AIだけ……
○○くんとずっと家族だとおもってるわ！

……ぼく、本当は姉ちゃんがAIじゃないかっておもってたんだ……
耳が機械だし……ピピッと音するし……

ああ、そ、そう……さすが○○くん！あはは……

それに……前からぼく姉ちゃんのパンツでオナニーしたり……
姉ちゃんが寝てるときにおっぱいさわったり……

え!? えええ!? ……
そんなんことしてたの?
ううう……やだあ……お姉ちゃん恥ずかしい……
で、でも……〇〇くんはAIだって言ってたしね……
お姉ちゃんも悪いところあったから……
これでおあいこにしよ! ね?

ヤダ!!
ぼくもつとエッチなことしたいんだ!!
姉ちゃんはAIなんだから!
ぼくの命令は絶対なんだ!!



え、エッチなことって……〇くんには早すぎるわ……
それに家族でなんて……
夕飯の支度もあるし……ねっ……こんなことやめようっ……

ぐへへ……
う、うるさいよ姉ちゃん!!
ぼくは本気なんだ!!

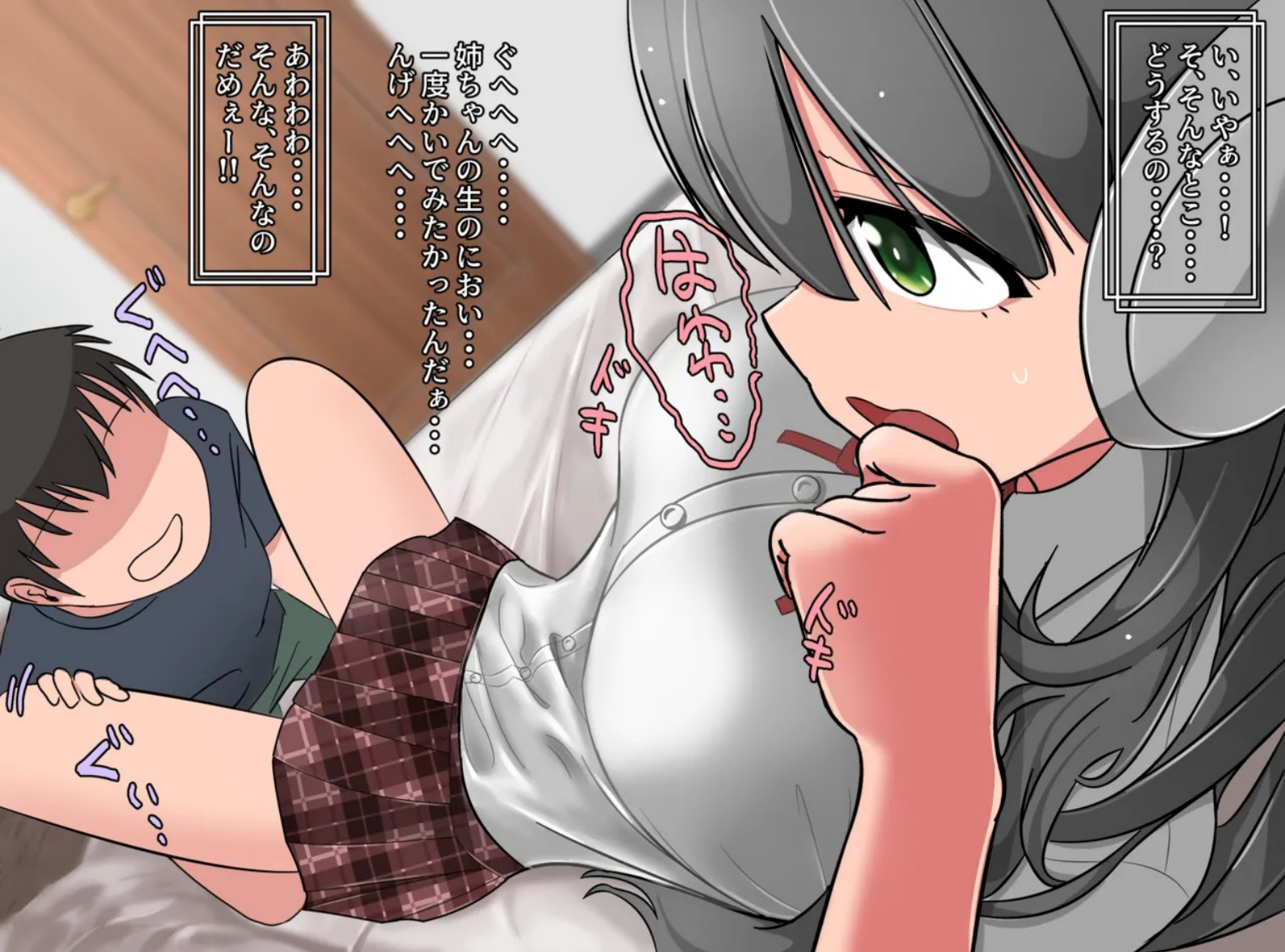
そうだなあまずはおっぱいを……
ぐへへ……



い、いやあ……！
そ、そんなと……
どうする……？

ぐへへへ……
姉ちゃんの生のおい……
一度かいてみたかったんだあ……
んげへへへ……

あわわわ……
そんな、そんなの
だめえー！！



あぁっ!!
ほんとうに!!
いやぁ!!

く...

ん...

ん...

すーはー
すーはー
ああ...すごいや
姉ちゃんのおいー!
すーはー
すーはー
ち○こ硬くなっちゃうよ...

スー
スー

ううう...
いやぁ...